

※ 作品の著作権は作者ならびにノアノオモチャバコに帰属します。無断での上演・掲載・配布は固くお断り申し上げます。

上演・掲載・配布等をご希望の場合は info@noa-toybox.com まで「」報じただ

け

ますよう、お願いいたします。

新説 水泥棒と恋泥棒

寺戸隆之

CAST

スズキ
柚子子
ケイ
エザワ
コシナ
KITAMURA
黒薔薇 緑
少女
郵便屋

そして少女は眠るようにその首を落とす。

駆け込んでくるケイとコミチ。

少女を見て息を呑む二人。

ケイ、コミチに何も見せないように抱きしめる。

そのままの風景のまま時間が止まる。

そしてその時間の停止を打ち破るように一機の飛行機が飛び立つ音。

上空を見上げるそれぞれ。

スズキ あ、飛行機雲だ。

爆撃の音。

スズキ 2011年は概ねそんな年だった。生まれて約三十年ぐらい、僕はこの村に住んでいる。この村の名前は泥棒村。泥棒村なんてヘンテコな名前がついたこの村は田舎も田舎。娯楽なんて何にもない。唯一の娯楽はこれ。そしてこの村を出る方法もこれ。ダウトで勝つこと。

音楽。

待ち行く人々。

1

舞台には郵便屋とKITAMURA。

郵便屋 おはようございます。郵便です。

KITAMURA おはようございます。今日もいそいそです。

舞台には柚子子。

柚子子 こねこねこねこねこねこね。ねこねこねこ。ネコ？にやおーん。今日のパンは何にしようかな？うーんうーんにやおーん。そうだ。甘くてちょっぴりほろ苦いオニオンブレッド。そうと決まったら玉葱玉葱炒めましようね。

コミチ入ってくる。

コミチ 久しぶり。

柚子子 コミチちゃん。どうしたの？

コミチ 帰ってきたんだ。この村に。あ、でも別に街で失敗したとか左遷だとか、飛ばされたとか使えないとか、ミスしまくりとかそう言うことじゃないのよ。

柚子子 本当に？

コミチ …そう。あがつてもいい？
柚子子 もちろん。

舞台にはエザワとKITAMURA。

エザワ ねえ、キタムラ。

KITAMURA 何ですか？

エザワ テレビ買った？地デジ見れるやつ。

KITAMURA いいえ。

エザワ じゃああんたも地デジ難民だ。

KITAMURA もともと見ませんか？

エザワ え？

KITAMURA テレビ。ダウトには必要ありません。すなわち僕にはこれっぽちも必要ありません
か？

エザワ そうね。

KITAMURA そうです。

エザワ (机の上の手紙をとる)

KITAMURA スズキさんのです。(と、取り返す)

エザワ はいはい。あんた、何してるの？留守番？

KITAMURA ダウトです。エザワさんと。

エザワ そうじゃなくて。

KITAMURA 他には何も。

エザワ なんでスズキ君の部屋にいるの？

KITAMURA いつもですよ。ダウトの練習をするためです。ま、最近スズキさんもケイ先輩に

もやる気は全く見られません。こんなことでは大会が思いやられます。

エザワ そうね。

KITAMURA そうそう。エザワさんがこの部屋に来るのもいつもですよ。もっというなら二人で

ダウトをするのも日課になりつつあります。今日で百二十六回目。うち僕の百二十五勝一敗。

僕の負けはおたふく風邪による不戦敗だけです。あがりです。やっぱりエザワさんじゃ練習に
なりませんね。

エザワ あっそう。

舞台には柚子子とコミチ。

コミチ ねえ、柚子子。ダウトで勝つためには何が必要かわかる？

柚子子 ダウト？

コミチ そう、ダウト。もう一度聞いわよ。ダウトで勝つために必要なものは何だと思う？

柚子子 うーん。

コミチ そう。運。それが勝負を決めるといっても過言ではないわ。勝負は時の運。確かにそう言
うものね。でもね、でもそれには大きな間違いがあるの。そのどうにもならないと思われてい

る運ですら自分の実力にすることができている方法があるのよ。どう？凄いでしょ。

柚子子 うん、うん。

コミチ うちの会社がね、独自の路線で見つけたうんちゃかとかいう研究所と共同研究を重ねた結果ね。

柚子子 うんちゃか？

コミチ いいの。細かいことは気にしないの。大事なのは研究の中身であり、成果なんだから。そうでしょう？違う？ねえ、違う？違うなら違うっていいのよ、いいのよ、そう、いいの、ね。いいの、で、違う？違う？

柚子子 はい…違わない？

コミチ よろしい。それでね、研究を重ねて重ねた結果ね。とてもね、とてもよ、凄いことがわかったの。運気っていうのはね、その人の持ち物でどうにでも変える事ができるのよ。ドッカーンって感じでしよう。ヒュー、ドッカーン。

柚子子 そ、そうね。

コミチ そもそもそもそも、そうなの、人の運っていうものの最も活発なピークっていうのが二十歳なのね。それでね、えっとなんだっけ、あれ、えっとね…ちよっと待ってね。面倒くさいからカンペ見ちやうから。

柚子子 カンペ？

舞台にはエザワとKITAMURA。

エザワ ねえ、スズキ君はどこにいったの？

KITAMURA なあ。

エザワ あんたが来た時からいなかったの？

KITAMURA いつもおおりですよ。

エザワ 私、ずっと不思議に思ってたんだけどさ、キタムラはいつもどうやってこの部屋に入るの？

KITAMURA 知ってますか？。

エザワ え？

KITAMURA 鍵の場所。

エザワ 教えて。

KITAMURA 駄目です。

エザワ あっそう。帰る。

KITAMURA どうぞ。

エザワ ねえ、キタムラ。別に私はスズキ君を待つてゐるわけじゃないのよ。(と、カードを出す。)

KITAMURA ダウト。

KITAMURA とタイ。

二人もダウトをしている。

KITAMURA ダウト。

ケイ (場のカードを持っていく) はいはい。でき、さっきも言ったけど大きな声ではいえないよ。

大きな声では言えないけど俺たちは本当は殺し屋なわけよ。殺し屋。わかる？

KITAMURA (カードを出す。) はい。

ケイ ああ、じゃあこれ。ダウトをやる俺たちは世を忍ぶ仮初の姿。わかるかな？

KITAMURA ダウト。

ケイ (再び場のカードを持っていく) くそー。

KITAMURA (カードを出す)

ケイ アイムヒットマン！H・I・T・M・A・N。そう。俺たちは冷静沈着な男。こんなゲームごときで熱くなつてはいけないのだ。

KITAMURA ダウト。

ケイ (ため息一つ。そして再再び場のカードを持っていく) 殺し屋って言うのはさ、孤独なジョブなわけよ。殺し屋って言うのはさ、義理や人情、そういう甘っちょろいもんで動いちやいけないのさ。あくまで非情に、そして冷酷に。依頼人への深入りなんてもつてのほか。あくまでビジネス。そう割り切らなくちやいけないわけよ。(と、どのカードを出そうか選んでる。)

KITAMURA ダウト。

ケイ へっ。

KITAMURA ダウトです。それ。(と、カードを出す)

ケイ 早くない？

KITAMURA そうですか。

ケイ …。

KITAMURA どうかしたんですか？

ケイ ……しまらない。

KITAMURA そりゃあそうですよ。二人でダウトしてるんですから。ある意味非生産的な行為です。練習にもなりません。

ケイ スズキの奴は？

KITAMURA ちあ。

ケイ あ、ダウト。それダウト。

KITAMURA どうぞ。(と、場のカードをケイへ)

ケイ あー！もう…！ん？よしよし。これでどうぞだ。必殺4枚だし！(と、カードを出す) そう。それでこそ俺たちは殺し屋にふさわしい。冷静巾着な俺たち。

KITAMURA ダウト。(と、再び場のカードをケイへ。そして次のカードを出す)

ケイ えっ。

KITAMURA それ、ケイ先輩のです。

ケイ ……どうじでわかったの？ジャック、4枚持つてるんだよ、俺たち。だからお前一枚も持つてないだろ。

KITAMURA 単純ですから。

ケイ へっ。

KITAMURA ケイ先輩。それに5枚出しています。

ケイ きー！ダウト。それダウト。ダウトって言ったらダウトなの！

KITAMURA どうぞ。(と、再再び場のカードをケイへ) ケイ先輩。

ケイ 俺たちの本名を気安く呼ぶなよ。俺たちは殺し屋なんだから。

KITAMURA もう少し真面目にやってください。こんなことじゃ大会で負けてしまいます。
ケイ はいはい。

KITAMURA いいですか。僕がこんな田舎の村に来た理由はただ一つ。スズキさんとチームが組めるからです。だからケイ先輩は、足だけは引っぱらないで下さいね。

ケイ あー！もうやめた、やめた。絶対止めた。おまけに絶対決めた。お前となんて二度とやらない。ダウトも。コーヒーじゃんけんも。そう。なにもかも！…なにこれ？

KITAMURA 手紙です。全部スズキさんのです。空けちゃ駄目ですからね。

ケイ ふーん。でもこれだけ宛名も差出人もないよ。

KITAMURA え？

舞台にはスズキ。

スズキ ダウトって言うのはある意味騙しあいのゲームなんだ。笑いながら違うカードを出して、引きつった顔をしながらかしいカードを出す。駆け引きなんだ。相手の嘘を見破りダウトとコール、そして自分は知らぬ顔で嘘を突き通す。その繰り返し。騙しあいつていうと聞こえは悪いけど、そうじゃない。あがった瞬間、僕は解放されるんだ。

少女入ってくる。

少女 ねえ、ダウトってどうやるの？

スズキ ダウトのルールは意外に簡単なんだ。まずは…。

スズキ、振り返る。

少女はいない。

スズキ、ため息一つ。

エザワ、入ってくる。

エザワ いたー！

スズキ え？あ。

エザワ スズキくん！

スズキ うわー！

舞台には柚子子とコミチ。

コミチ (テキストを棒読み) 二十歳を過ぎると、人間の持つ運氣はどんどん鈍り始め、運動機能と同じ様に低下していきます。全く関係ないと思われるいた年齢と運氣は密接な比例関係にあるのです。抵抗できない年齢の増加による靈気の減少。この減少していく運氣を補うためには身につける装飾品の改善が必要なのです。ここまではいい？

柚子子 はい。

コミチ じゃあ続けるわよ。

柚子子 …はい。

舞台にはエザワと柚子子。

エザワ ねえ、スズキ君を見なかった？

柚子子 知らないよ。

エザワ ありがとう。もう、どこに行っちゃったのよ。小指の先のスズキ君。ウフフフフ。

柚子子 ウフフフフ。

舞台には柚子子とコミチ。

コミチ 聞いているの？

柚子子 あ、はい。

コミチ でね、私たちの運気の源は自分の肉体から発生するオーラなのですが、実は赤ちゃんの肉
体から発せられるオーラでは運氣もピチピチであり、老化した肉体では運氣もボロボロだとい
うことが分かったのです。要するに…あー、めんどくさい。要するにこれ！これを買って身に
つけたらいいじゃない。そうすればダウトで勝てるのよ。これを買えば。力石！（と、だそう
とする）あれ？あれ？…ない。

柚子子 コミチちゃん？

コミチ ないの。

舞台にはスズキ、ケイ、KITAMURA。

スズキ たいま。なんとか逃げ切った。大またで走るの好きじゃないんだ。

KITAMURA おかえりなさい。

スズキ たいま。はい。新聞。

ケイ ありがとう。はい、手紙。

スズキ ありがとう。…ねえ。

ケイ あ、ダウトの話はするなよ。俺たちは世界一ダウトが嫌いなんだ。そう、死んだ親父も言っ
てたんだ。あれだけには手を出すな。あれは悪魔のささやきだって。

KITAMURA 死んでないですよ。

ケイ 死んだの。俺がたつた今殺したの。俺は孤独なヒットマン。OHOOHH。ヒットマンブルー

ス♪。

スズキ ねえ、どうして僕の部屋がこんなことになってるの？

ケイ ああ。

スズキ ああつてなんだよ？ああつて。

ケイ ああ、喉が渴いたな、ミルク。ミルク。

ケイ、去る。

KITAMURA 、「愁傷様。

スズキ (ため息)

KITAMURA エザワをいびますからね。

スズキ え、彼女がうちにくちどちどちとして、こんなことには？

KITAMURA 恋愛における負のエネルギーは時にマイナス以上のマイナスを持った。パワーを生み出すことがありますからね。

スズキ はあ？

音楽。

舞台にはエザワとKITAMURA。

エザワ、トランプをばらまく。

ケイが入ってくる。

エザワ、なぜかケイにビンタ。

エザワ、去る。

ケイ ミルク。ミルク。

KITAMURA 、「どういふことですか。」

スズキ どういふことだよ？

ケイ ほんとだよ。どうして俺たちが引っ叩かれなきゃならないんだよ。

スズキ (ため息)

少女入ってくる。

少女 負けちゃったの？

スズキ え？

少女 あーあ、こんなに散らかしちゃって。残念だったね。でも駄目でしょ。トランプにあたっちゃ。

スズキ うん、ごめん。

少女 素直でよろしい。

ケイ どったの？

スズキ え？

スズキは振り返る。

少女はいない。

KITAMURA どうかしましたか？

スズキ …別に。

ケイ かーっ。やっぱりダウトの後のミルクは格別だわ。

KITAMURA ちゃんと練習してから言ってください。さあ、スズキさん、ダウトをしましょう。
スズキ ダウト？

KITAMURA は。

ケイ ミルクプハーツ。

スズキ ダウトバカとホントのバカ。これじゃあまるでホットサンドだ。

ケイ ん？

スズキ ホットサンド。

ケイ うーん。ミルクにホットサンド。それはディフィカルトなプロブレムだ。で、手紙は誰からだった？

舞台には黒薔薇緑。

手には拡声器。

黒薔薇は街行く人たちにビラを配るが誰も受け取ってはくれない。

黒薔薇 私の前をただ通り過ぎていく小憎らしい有象無象の皆様、おこんにちは。私、愛は人を不幸にする、幸せはお金で買うのよ、でお馴染みのモケレムベンベ教・教祖、黒薔薇緑でございませう。この度、私は一つの天命を受け、この村にて布教を始めさせていただきますことと相成りました。神の使いである漆黒の薔薇はこう仰られました。「このか弱き村に赴きなさい。そこでその村の人のために私の体を使いなさい」と。私はそれを聞いて思いました。TOKYO シティより遠き地にあるこんな糞田舎の村に私の御言葉を聞くまともな人間はいるのだろうか。しかし神は絶対。そしてその使いである薔薇も同様。正直、糞田舎の空気はお金を愛する私にはふさわしくないとはいえます。が、先ほども言いましたが神は絶対。故に薔薇も絶対。有象無象のために骨を折るのは正直金にならなそうなのでイヤなのですが洪々有象無象のあなた方のために働いてあげてもいいかなと思っております。

エザワ あの一つお聞きしたいんですけど。

黒薔薇 はい。何でございませう。

エザワ 打つ飛ばしていいですか？

黒薔薇 え？

エザワ あなたを打つ飛ばしていいですか？私今非情にむしゃくしゃしてるんです。あなた「私はあなたのためのになりたい」と言いましたよね。

黒薔薇 た、確かに。そうですね。かの昔、イエス・キリストなる有名な方は右の頬をぶたれたら左の頬を差し出したそうです。私も同じ様に、いいえ、それ以上に、左の頬と言わずこの丸いお尻を蹴り飛ばされることもいとわないでしょう。さあ、どうぞ、心置きなく！

エザワ ばっかみたい。ばっかじゃないの。

エザワ、黒薔薇を思いつき蹴り上げる。

エザワ あー、余計むしゃくしゃする。

舞台には柚子子とコミチ。

コミチ ない。ない。どこにもない。いないいないバー。

柚子子 コミチちゃん。

コミチ ん？何？同情ならいらぬわよ。どうせ私は TOKYO シティで失敗して生まれ育った片田舎に逃げてきた失格セールスレディーよ。失格って言う烙印をメス豚のように焼き鰻でジュッてされちゃうのよ。いいのよ、笑って。そしてジュッて。どっちかって言うど笑って。ジュは跡が残らない程度に。っーか、笑え。ジュ。笑いなさいよ。ジュジュジュ。笑えばいいじゃない。ジュー。もう笑って頂戴！

柚子子 私が作ったパンでも食べる？

コミチ 柚子子、パン屋になったの？

柚子子 パン屋になったのじゃ。さ、ほっぺた落ちちやうぞよ。

コミチ …うん。

舞台には黒薔薇と郵便屋さん。

黒薔薇 欲しがりません。勝つまでは。

郵便屋 黒薔薇緑さん。郵便です。速達ですここにサインを。

黒薔薇 はいはい。どうも。

郵便屋去る。

黒薔薇、速達を開ける。

黒薔薇 何これ？ん？

舞台にはスズキとケイ。

ケイ で、手紙は誰からだった？

スズキ DM ばっかし。

ケイ じゃあこれは？（と、かわいらしい封筒を出す。）

スズキ へ？

ケイ 随分と可愛らしい封筒で、ふむふむ、これは、ラベンダーの香り。花言葉は『あなたを待っています。』そして返事を『期待』していた思いはいつしか『疑い』から『不信』、『疑惑』、そして気づけば愛を忘れたように『沈黙』、そして最後の『香』は『私に答えてください。』つまりとても重い思いです。

スズキ それ、どこにあった？

ケイ あれ、差出人が書いてないぞ。てゆーか切手も消印もないや。よく届いたな、これ。

スズキ 返せ。（と、ケイから手紙を引く手繰る）

ケイ どうしたんだよ、急に血相変えて。

スズキ 別に。

KITAMURA 入って来る。

KITAMURA 全部郵便屋さんが持ってきましたよ。
スズキ え？

音楽。

郵便屋入ってくる。

手紙を KITAMURA に渡す。

郵便屋去る。

手紙をとるケイ。

それを咎める KITAMURA。

ケイ、その中から可愛い封筒を見つける。

少女入ってくる。

少女 はい。

スズキ 何これ？

少女 手紙。スズキさんに書いてきた。もらって。

スズキ うん。ありがとう。

少女 読まなくてもいいから。そのまま捨てちゃってもいいし。

スズキ え？

スズキ振り返る。

少女はいない。

ケイ どれどれ。(と、手紙の中身を出そうとする)

スズキ 返せ。(と、引っ手繰る)

ケイ 誰から？

スズキ どうでもいいだろう。

ケイ どうでもよくない。

スズキ はいはい。

KITAMURA ちよと。練習しますよ。

舞台には黒薔薇。

黒薔薇 痛い。痛いよ。お尻が痛いのよ。こういう時、せめて××したら楽になるのに。ん？××？
××って？何？何をしたら楽になるの？何を流すと楽になるの？

舞台にはスズキ。

郵便屋がみんなに手紙を届けている。

郵便屋 こんにちは、郵便です。

手紙を見る全員。

スズキ その手紙にはどれも同じ文が書かれていた。それもたった一行だけ。手紙にはこう書かれていた。

全員 瑞々しさを取り返せ。

スズキ 一行だけそう書いてあった。

郵便屋 大会要綱の書かれたビラを撒く。

2

舞台にはスズキ、ケイ、KITAMURA。

スズキ ねえねえねえね。僕の手紙にはね、

KITAMURA 今回の大会要綱が発表されました。

スズキ あ、はい。

ケイ あ、俺たちは殺し屋だから自分流で。

KITAMURA 流します。僕が先に読んだところ、基本的には例年と大きく変わったところはないようです。まずダウトのルールはFIDA公式ルールを採用する。FIDA公式ルールは最もオーソドックスなルールです。ケイ先輩。

ケイ だから長いものに巻かれるのは好きじゃないっつーの。

KITAMURA ルールはもちろん知っていますよね？

ケイ …プレイヤーに均等にカードを配る。プレイ順を決めた後、プレイヤーは1から順に自分の順番に対応したカードを裏向きで場に出す。手札を最初になくしたプレイヤーの勝ち。

KITAMURA 一応知ってはいるみたいですね。

ケイ カードを出す際に、自分の順番に対応したカードを出す必要はない。他のプレイヤーは、出したカードが対応していないと思ったらダウトとコール。コールされた場合は出したカードを表向きにし、対応したカードだった場合はコールしたプレイヤーが、対応していないカードだった場合はカードを出したプレイヤーが、場に出ているカードを全て引き取ってゲームを続行する。

KITAMURA いいでしょう。

ケイ いいかい。キタムラ君。俺ちだって前回大会の個人戦ベスト8なわけよ。

KITAMURA 今大会も行われるのは個人戦と団体戦です。

ケイ はい。無視ね。

KITAMURA なお団体戦の場合、チームは1チーム3人で構成し男女は問わない。2チームの合計6人でゲームをして最初に上がったプレイヤーのいるチームの勝利です。ですからケイ先輩は足だけ引っ張らないで下さい。

ケイ はいはい。

KITAMURA 個人戦、団体戦は共にトーナメント形式で行われます。そして優勝者には。

ケイ TOKYO シティへの移住権。

KITAMURA そうです。でもそれも優勝してからの話です。最近3年間で優勝者は出ていません。

4年前の個人戦での優勝者を最後に、毎年ゲームが長時間に及び疲労によるギブアップ者の続出。該当者なしに終わっています。

スズキ ダウトは終わらないゲームだからね。

KITAMURA スズキさん、個人戦はエントリーしなくていいんですか？

スズキ うん。せめて個人戦ぐらいは守らないとね。

KITAMURA ん？

スズキ それよりもね、僕の手紙には水々しさを取り返せって書いてあるんだ。

KITAMURA え？

ケイ それこそ全く関係なし。なあ、キタムラ。

スズキ そうなんだけど、水水。

ケイ だから関係なし。

KITAMURA 違いますね。

ケイ ん？

KITAMURA 瑞々しさと水水しさ。字が違いますね。FRESHとWATER。じつじつと明確です。

だからどうしたと言われると僕にも困りますが。

ケイ キー。さっきからお前の言い方はなんかむかつく。イライラする。よし。撃ってやる。俺のマグナムで撃ってやる。そこに直りやがれ。バーン。

大砲の音、一発。

ケイ え？三十六計逃げるに如かず。おかーちゃん！

ケイ、去る。

爆撃の音、更には地上戦の音。

そしてラジオからノイズ。爆撃の音はノイズに変わっていく。そしてノイズから、

ラジオ (英語で) 瑞々しさを取り返せ。

そしてラジオからは音楽。

舞台にはスズキとKITAMURA。

スズキ 直ったー！凄く凄く。

KITAMURA これくらいお茶の子さいさいですよ。

スズキ ん？

KITAMURA お茶の子さいさいですよ。

スズキ もう一回。

KITAMURA 何がですか？

スズキ お茶の子。

KITAMURA ちいさい。

スズキ へー。

KITAMURA なんですか？

スズキ なんだかキタムーがお茶の子さいさいっていうのが新鮮だなって思って。なんていうの、お茶の子さいさいって、なんだか、こーう、フランクな感じがしない。僕はてっきりキタムーが、ただのダウトバカかと思っていたよ。

KITAMURA …フツウです。それにそのキタムーってのやめてください。

スズキ ねえねえ、これ、どうやって直したの？ねえ、キタムー。

KITAMURA さ、今日こそはダウトの練習しますよ。

スズキ えー。あ！(と、あらぬ方向を見る。)

KITAMURA え？(と、釣られる。)

スズキ、逃げようとする。

ラジオ (英語で) 臨時ニュースをお伝えします。

ラジオを見つめる(耳を傾ける) KITAMURA。

ラジオ (英語で) 臨時ニュースです。白黒街と玉葱街で始まった戦争は本日正午過ぎ、その隣に位置する柚子街まで戦火を広げた模様です。これをうけて…。

ラジオからは再びノイズ。

スズキ あれ、また壊れたの？やっぱ駄目なのかな、ねえ、キタムー。…キタムー？

KITAMURA スズキさん。ラジオ、いつから壊れてましたっけ？

スズキ え？

KITAMURA いつから…。

舞台にはコミチとケイ。

ケイ おかーちゃん。あ。

コミチ あ。

ケイ よ。

コミチ よ。何？おかーちゃんって？

ケイ 痩せた？

コミチ 変わってない。また適当なことばかり。

舞台には黒薔薇とエザワ。

黒薔薇 ちょっと、お手をめくりませう。(と、エザワの手をとる。)

エザワ え？

黒薔薇 (エザワの手相を見ながら) なるほど。なるほどねえ。それであなたのお悩みはなんですか？

エザワ あの、

黒薔薇 ストップ！言わなくても私にはわかります。わかってしまうのです。それがこの黒薔薇に天が与えた力。ズバリ！ダウトのことでしょう。この村の方は皆ダウトのことばかり考えていますからね。あなたも同じ。そうでしょう。わかりました。その悩み、この黒薔薇が解決して差し上げましょう。

エザワ いや、だから、

黒薔薇 でもその前に。ほぼその前に。お布施を。平たく言うなら銭っこを。

エザワ 違います。私、ダウトなんてどうでもいいんです。

黒薔薇 え？またまた。いいんですよ。無理なさらなくても。ダウトで勝てばTOKYOシティに行く。この村のみんなが望んでいることです。だからあなたも一緒はず。あ、お布施はできればお札を新札でお願いしますね。

エザワ 違います！

エザワ、去る。

黒薔薇 あれ。あの、ちょっと、かの方。…もしかして、もしかしてですよ。お悩みごとは「恋」ですか？

舞台には KITAMURA。

後を追ってスズキ入ってくる。

スズキ ねえ、キタムーってば。待ってよ。

急に止まる KITAMURA。

スズキ イタッ。あ、やっと止まってくれた。ねえ、キタムー。

KITAMURA スズキさん。

スズキ あ、はい。

KITAMURA スズキさんは今回の大会、優勝する気はありますか？

スズキ そうだね。優勝できるといいね。

KITAMURA 僕は優勝したい。いいえ、優勝しなくちゃいけないんです。

スズキ うん。わかった。がんばろう。

KITAMURA それじゃ駄目なんです。

スズキ え？どうして？

KITAMURA 駄目なものは駄目なんです。

KITAMURA、去る。

コミチ 今日は何飲むぞー！

ケイ 今日は？

コミチ ジロリ。

ケイ 今から？

コミチ ギロリ。

ケイ 俺っち、今日は珍しくダウトの練習でもしてみようかと…。

コミチ ダウトと私、どっちを引くの？

ケイ 私？

コミチ よろしい。

舞台には郵便屋。

郵便屋 チリンチリンチリン。毎度お騒がせしております。郵便です。郵便屋が通りまーす。エザワさん！エザワさんに郵便ですよー！

舞台には柚子子とエザワ。

柚子子 玉葱♪たまねぎ♪玉葱を切ると××がくるの。ジワってくるの。

エザワ パン…。

柚子子 玉葱。

エザワ (ため息)

エザワ、去る。

柚子子 玉葱がお目めやお鼻の粘膜をチクチクするから××がでるのね。それを防ぐにはゴーグルで目を覆ったり、鼻をつまんだりするのが良いみたい。ん？××？あれ？何がでるんだっけ？あれれれれ？

KITAMURA 入ってくる。

スズキ キタムー。待ってよ。

スズキ、入ってくる。

スズキ やっと止まってくれた。キタムーってさ、意外に足早いんだね。

KITAMURA スズキさん。

スズキ はい。何でもしよう？あ、ダウトする？草ダウトだね。

KITAMURA どうして真剣にダウトをしようとしなないんですか？昔はトッププレイヤーだったじゃないですか。

スズキ 昔はね。

KITAMURA 違います。今もです。ただスズキさんが真面目にダウトをしていないだけです。
スズキ そうかもね。でももうやめたんだ。

KITAMURA えっ。

スズキ ダウトで勝負をするのは。

KITAMURA どうしてですか！僕はスズキさんに、

柚子子 喧嘩は駄目です。

スズキ ごめんね。やめたんだ。

KITAMURA …。

スズキ キタムー。

KITAMURA 去る。

柚子子 ねえ、パンは好き？

スズキ え？

柚子子 パン。好き？

スズキ …それなりに。

柚子子 じゃあ大好きになってね。そうしたら喧嘩もしないから。ね。

柚子子、去る。

スズキ ん？

少女入ってくる。

少女 ねえ、私強くなったでしょう？

スズキ え？

少女 強くなった、よね？だってもうケイさんには勝てるし、スズキさんにだって簡単には負けな
いよ。

スズキ そうだね。でもまだまだ僕にはかなわないけどね。

少女 やってみなぎやわからないよ。勝っちゃうかもよ。

スズキ いいよ、じゃあダウトやろうか？

少女 うん。

スズキ よーし。勝負だ。

スズキ振り返る。

少女はいない。

スズキため息一つ。

舞台には黒薔薇とスズキ。

黒薔薇 ちよつとその人。

スズキ え？僕？

黒薔薇 そう。探し物ですか？

スズキ 捜し人です。

黒薔薇 なるほど。あつち、かな。

スズキ いや、こつち。

黒薔薇 それともあつち、かな。

スズキ だからこつち。

黒薔薇 お知りになりたければ銭っこを。

スズキ それどつち？

舞台にはケイとコミチ。

コミチ もう一軒！

ケイ もう一軒？

コミチ ギョロリ。あん？なんか言った？

ケイ いいえ、何にも。

コミチ いいこと？私はね、ここ数年で唯一、この村のダウト大会で優勝した人間なのよ。そこん

とこわかつてるの？この空っぽ頭。

ケイ あ、はい。空っぽです。

コミチ そう簡単には優勝できないんだからね。優勝するのがどんだだけ大変なことか。

ケイ そうですね。十二分に空っぽなつもりです。

コミチ いいや、空っぽ頭はわかってない。わかっちゃいない。そこんとこ、ちゃんと教えてやる。

よし。もう一軒だ！

ケイ 俺はさすらいのヒットマン…。さすらい前に流される。

舞台には黒薔薇とケイ。

黒薔薇 ちよつとその人。

ケイ 俺つち？

黒薔薇 そう。お主、死相がでておる。

ケイ 死相だ？望むところよ。俺つちは殺し屋。危険な職業に身をおいているのさ。死相ごときで

ビビってなんざいられないぜ。

コミチ、入ってくる。

コミチ ケイ。行くよ。私の優勝苦勞話、聞くんですよ。

ケイ 目が据わっていらつしやる…はい。

コミチとケイ、去る。

黒薔薇 あ の、私の苦勞話も聞きませんか？ちよつと、ねえ、お布施つきで。お願い。

舞台にはエザワとKITAMURA。

エザワ ヒューウ、ポチャーン。私だつてね、わかっているよ。ヒューウ、ポチャーン。本当なんだから。ちゃあんとわかっているの。わかっているよ。ヒューウ、ルリ、ヒュールリララー。でもね、わかっても、どうしようもないことであるでしょう。

柚子子、入ってくる。

柚子子 玉葱売ってなかった。だから買えなかった。シユン。

柚子子、去る。

エザワ ほら。売ってなきや買えないの。これってどうしようもないことでしょう。どうしようもないの。あるじゃない。どうしようもないことって。それも一杯。嫌になる程一杯。

KITAMURA …。

エザワ そうなの。嫌がられても嫌がられたって好きなものは好きなよ。キタムラにはわからないかもな、この乙女的内向性ウジウジ。ウジウジウジウジ。…私ね、スズキ君のダウトをやっている姿に一目惚れしたの。4年前の大会の時にね。スズキ君かっこよかったんだから。相手の嘘を見破る鋭い目。それとゾクツとする程のポーカーフェイス。もう敵なしだったんだから。

KITAMURA …。

エザワ もう4年も片思い。あーあ、でもどうして嫌がられるんだろう？せめて理由がわかればなし。

舞台にはエザワとスズキ。

エザワ ねえ、キタムラ。私どうしたら、

スズキ ねえ、キタムー知らない？

エザワ え？スズキ君？いつからそこに？

スズキ 知らない？あ。

エザワ 今の聞いてた？聞いてたよね。あーもうこうなったら、ボディーラングエジ。

スズキ うわー！

KITAMURA 入ってくる。

KITAMURA あ。

KITAMURA 去る。

スズキ ちよつと、キタムー。
エザワ スズキ君。

郵便屋 入ってくる。

郵便屋 チリンチリン。あ、エザワさん。

舞台にはケイとコミチ。

コミチ もう一軒！

ケイ そろそろやめといたほうが…

コミチ ゴロリ。あん？なんか言った？

ケイ いいえ、何にも。

コミチ いいこと。私はね、別に TOKYO シティで失敗したわけじゃないんだからね。ただちよつ

と、あれよ。あれしただけなんだから。

ケイ そうだね。失敗したのね。

コミチ あれがあれして何が悪いのよ。ねえ、何が悪いのよ。こんちくしょう。

ケイ わかるよ。わかりますからね。あれがあれでこんがらがって。

コミチ よーし。空っぽ頭はわかってる。よーくわかってる。お前は空っぽのクセによくわかるや

つだな。

ケイ ありがとうございます。じゃあそろそろ帰りましょうか。

コミチ だからもう一軒だ！行くぞ！

ケイ 俺はさすらいのヒットマン…。流される前に流される。

舞台には黒薔薇と柚子子。

黒薔薇 要するにオニオンブレッドを作りたいのに玉葱が買えなかった。そういうことですね。

柚子子 シュン。

黒薔薇 なるほど。それはお困りでしょう。

柚子子 はいシュン。

黒薔薇 待ってください。力を感じます。私には確かに見えます。玉葱を買えなかった、えつと。

柚子子 柚子子シュン。

黒薔薇 そう。柚子子さんの姿が。しかし私には別の柚子子さんも見えます。

柚子子 ん？

その周りで KITAMURA、スズキ、エザワに郵便屋の追いかけっ。

黒薔薇 見えます。ハッキリと見えるのです。

KITAMURA …。

スズキ キタムー。
エザワ スズキ君。
郵便屋 郵便です。
黒薔薇 これは、
柚子子 ワクワクワクワク。私もやる！
黒薔薇 え？
柚子子 待てー！
黒薔薇 柚子子さん？

KITAMURA、スズキ、エザワに郵便屋の追いかけてここに黒薔薇と柚子子も加わる。
舞台にはケイとコミチ。

ケイ ほら、そこ座って。
コミチ もう一軒！
ケイ 駄目。はい、座る。今水持ってくるから。(ため息)これじゃ殺し屋の名がすたる…。
コミチ 酒持ってこーい！

KITAMURA 入ってくる。

KITAMURA あ。

KITAMURA 去る。

ケイ おい。キタムラ！行くと撃つぞ。撃つちやうぞ。おいつて！まちやがれ、この野郎。ダウト
バカ！
コミチ ねえ、
ケイ くん？
コミチ こころって、
ケイ スズキの部屋。
コミチ スズキ君ってあの？
ケイ そう、あのスズキ。
コミチ ふーん。どうしてあのスズキ君の部屋にあなたがいるの？
ケイ 俺たちは殺し屋だよ。用心棒。
コミチ 居候。
ケイ そうとも言つ。
コミチ そうとしか言わない。
ケイ あはははは。
コミチ スズキ君、やめてなかったんだね。ダウト。私てつきり、
ケイ さあ、どうだかな。
コミチ え？

ケイ あれじゃあやめてるのと一緒だよ。

スズキ、入って来る。

コミチ あ。

スズキ たいだいま。

ケイ おかえり。

スズキ はあ。キタムー。

KITAMURA、入ってくる。

KITAMURA はい。

スズキ あ。いた。

エザワ、郵便屋、柚子子、黒薔薇が入ってくる。

スズキ、押されて派手に転ぶ。

スズキ イタツ。

ラジオからノイズ。ノイズから音楽。

スズキ あ、直った。

全員の視線はラジオへ。

ラジオ (英語で) 片田舎のこの村からは遠い地にあるそれほど大きくもない街とその隣のこれまた大きくもない街との間で起こった戦争はその隣のそれより小さな街にも飛び火した。それでも僕らには何も関係がないように思えた。でもそれは本当にそう思えただけで、けどそれはよく見れば疑わしく、少しずつ、でも日増しに色濃くその影を落としていった。そう。落としていく。

全員 片田舎のこの村からは遠い地にある、それほど大きくもない街と、その隣のこれまた大きくもない街との間で起こった戦争は、その隣の、それより小さな街にも飛び火した。それでも僕らには、何も関係がないように思えた。でもそれは本当にそう思えただけで、けどそれはよく見れば疑わしく、少しずつ、でも日増しに色濃くその影を落としていった。そう。落としていく。

ラジオからは音楽。

柚子子とスズキ。

柚子子 ねえ、このラジオ。私に譲ってくれない？

スズキ え？これ？

柚子子 そう。

スズキ うーん。

柚子子 駄目？

スズキ うーん。

郵便屋とエザワに KITAMURA。

郵便屋 エザワさん。郵便です。

エザワ ご苦労様。あれ？これ封があいてる？

郵便屋 ごめんなさい。

エザワ 郵便屋さんがあけたの？

郵便屋 違います。今日から手紙が検閲されることになったんです。

エザワ そうなの？

郵便屋 はい…。

KITAMURA それ本当ですか？

郵便屋 はい…。

黒薔薇、柚子子とコミチにケイ。

黒薔薇 柚子子さん、玉葱必要なんですよね？

柚子子 そうだ。玉葱なかったんだ。

コミチ ねえ、柚子子。

柚子子 柚子？

コミチ 子。

柚子子 ミチ。

コミチ え？

柚子子 柚子だ！

コミチ 柚子子。私、戦争は反対。

柚子子 柚子。ん？何の話？

黒薔薇 玉葱の話ですよ？

コミチ あ、インチキ宗教家。

黒薔薇 え？

ケイ 違うぜ。俺たちの殺し屋としてのなはばしい、ちよつぱり××な×ける話だ！ん？××？と
にかく、俺たちの殺し屋ヒストリー。ヒットマンブルース。プリーズ！

ラジオから激しいノイズ。

ケイ え？

ラジオ (英語で) 瑞々しさを取り返せ。

そして激しい爆撃と地上戦の音。

スズキ それでも僕らの日々は変わらない。そう。変わらなかった。
全員 瑞々しさを取り返せ。

スズキ たった一行だけ、一行だけそう書いてあった手紙が届いた後も、僕らの日々は変わらな
った。

KITAMURA ダウト。練習です。

スズキ 変わらなかった。

ケイ ダウト。アイムヒットマン！

スズキ 変わったようには見えなかった。そんなこともある。

エザワ ダウト。スズキ君。

スズキ そうだ。変わった事もあった。

黒薔薇 ダウト。銭っこを。

スズキ そう。黒薔薇緑なる宗教家が広めたモケーレムベンベ教はいつのまにか意外にもこの街に
広まった。

柚子子 ダウト。柚子パン新発売。

スズキ そして変わった。パンが飛ぶように売れた。柚子入り？柚子味？

コミチ ダウト。戦争反対。

スズキ でも戦争が広がった。

郵便屋 ダウト。おはようございます。郵便です。

スズキ そしてもう一つ。

全員 瑞々しさを取り返せ。

スズキ あれ以来、どうも僕らは××を無くしてみたみたいだった。ん？××？××。だから僕らはど
うも何かに追われて焦っているみたいだった。そして泥棒村ダウト大会はもう目の前だった。

一機の飛行機が飛び立つ音。

上空を見上げるそれぞれ。

スズキ あ、飛行機雲だ。

3

舞台にはスズキと郵便屋。

郵便屋 おはようございます。郵便です。

スズキ おはようございます。ご苦労様でございます。

郵便屋 あの、(渡さず)

スズキ ほう？

郵便屋 これ、キタムラさん宛なんですけど。
スズキ はいはい。渡しとけばいい？
郵便屋 うーん。
スズキ え？

エザワ入ってくる。

エザワ スズキ君！

スズキ え？

エザワ 今日という今日は逃がさないわよ。

スズキ うわー！

エザワ 待てー！

郵便屋 渡しづらい手紙もあるものですね。

舞台にはケイとKITAMURA。

KITAMURA ピッピッピ。ピッピッピ。はい。小休止です。十秒。あ、立ったまま休んでください。

座らない。座ったら鉄拳制裁です。

ケイ あの、

KITAMURA はい。休憩は終わりです。次は筋トレ各百回を十セット。初め。

ケイ あの、

KITAMURA 喋る暇があったら体を動かして下さい。

ケイ いや、あの、体力をつけることとダウトは関係ないよな。

KITAMURA ないよな？

ケイ え、だから、ないですよね。

KITAMURA あまーい！いいですか、ケイ先輩。ここ数年の結果を考えて見てください。毎年のように長時間のゲームでの疲労と緊張感でギブアップ者が続出なんですよ。勝ち抜くためにはまず体力なんです。

ケイ それはそうかも知るんだけど、これ敵しすぎない？

KITAMURA 鈍ってるケイ先輩にはこれでも足りないくらいです。はい、初め。

ケイ あの、もう一つ。スズキは？

KITAMURA …スズキさんはもう期待できません。

ケイ へ？

KITAMURA スズキさんには勝つ気がないんです。そんな人には何も期待が出来ません。ですからケイ先輩に頑張ってもらおうことにしました。

ケイ 俺たちには足だけは引く張るなっっていったくせに。

KITAMURA 何か言いましたか？

ケイ いいえ、何も。あ！(と、あらぬ方向を指す)

KITAMURA え？(と、釣られる)

ケイ 今だ。三十六計逃げるに如かず。おかーちゃん！

ケイ、走り去る。

KITAMURA …僕は勝たなきゃいけないんです。

舞台にはスズキ。

スズキ うわー！

黒薔薇 お供を従え入ってくる。

黒薔薇 迷える子羊よ。そして未だ意地を張り続ける有象無象の皆々様。全ての者に髪と薔薇の増量を。ソーメン。

お供 ソーメン。

黒薔薇 もしくは乾麺。

お供 乾麺。

スズキ、お供にまぎれる。

エザワ、入ってくる。

エザワ スズキ君！

黒薔薇 そのエザワさん。

エザワ あんた、いつの間に私の名前を？

黒薔薇 エザワさん。神の使いである薔薇にわからぬことなどありません。で、お捜し人ですか？

エザワ スズキ君です。

黒薔薇 なるほど。あつちかな？それともこっちかな？お知りになりたければ銭っこを。

エザワ はいはい。いい子でちゅねー。ご褒美に飴っこをあげましょうね。もう私に構わないでくれませんか。

エザワ、去る。

黒薔薇 かのものにも髪と薔薇の増量と祝福を。広東麺。

お供 広東麺。ソーメン。乾麺。広東麺。

お供、去る。

スズキはお供と反対側に去ろうとする。

黒薔薇 ちよつとそのスズキさん。

スズキ 僕？

黒薔薇 どうしてあなたはかの女性を受け入れないのですか？

スズキ へ？アハハハハ。パス。

黒薔薇 ちよつとこのスズキ。

スズキ 呼び捨て、ですか？

黒薔薇 どうしてあなたはダウトをしないのですか？

スズキ アハハハハ。パス。

黒薔薇 受け入れるのです。

スズキ へ？

黒薔薇 受け入れることがあなたを唯一前へ進ませてくれるでしょう。

スズキ そうなの？

黒薔薇 そうなのです。

スズキ 本当に？

黒薔薇 本当なのです

スズキ うーん。

舞台には柚子子とケイ。

ケイ でき、俺たちは言つてやったわけよ。「俺の背中に立つんじゃないやねえ」って。そしたらさ、そいつ、どうしたと思う？

柚子子 うーん。ケイさんの前に立った。

ケイ 残念。おしい。

柚子子 うーん、ケイさんの横に立った。

ケイ ああ、おしい。惜し過ぎる。でも違つんだな。俺たちはね、殺し屋なわけよ、ドウユーノウ殺し屋？

柚子子 どうゆうのが殺し屋？

ケイ うーむ。

柚子子 うーん。

ケイ まあいいや、答えはね、…そういえばさ、柚子っ子ちゃんはどう思うっ瑞々しさを取り返せつて、あの手紙。やつぱり俺つち的には、

柚子子 私が気になるのはね、うーん。

ケイ 気になるのは？

柚子子 あ、コロシヤさんではどんなパンが売ってるのかしら？

ケイ そうそう。パンね。殺し屋では冷静沈着で危険と隣り合わせのパンを、つてパンは売つてないよ。売つてないからね。柚子っ子ちゃん面白いね。面白いよ。それでね、そいつがね、なんていったか言つて、

柚子子 売つてないの？

ケイ おかーちゃんって。

コミチ 入ってくる。

コミチ あ。

ケイ よ。

コミチ よ。何してるのよ？おカーちゃんってまた。

ケイ いや、なんつーの、あれだよ、あれ。俺たちの武勇伝をだな、柚子子さんにも教えてあげようかなって。

コミチ ふーん。

ケイ あれ？コミチも聞きたかった？

コミチ 醜態伝の間違いでしょ。あ、それとコミチって呼び捨てやめてね。あなたと私は何にも関係ないから。

ケイ 今はね。

コミチ そんなに暇ならダウトでも練習すれば？

ケイ いや、それがさ、今ちようどしてたところなだけだし、キタムラ、あ、こいつ、最近うちのチームに入った奴なんだけど、こいつの練習がスパルタ、まさしくスパルタ鬼なのよ。もう無理。ついていけない。

コミチ フン。まったくいつまで夏休みのつもりなのかしら？

ケイ 俺っち？

コミチ はい、柚子子。柚子。柚子子柚子って面白いね。早口言葉みたい。

柚子子 コミチちゃん、全然面白くなさそうだよ。

コミチ、柚子子が入った袋を柚子子に渡す。

柚子子 あ、ありがとう。

コミチ でもこれだけ…。

柚子子 少ないね。シユン。

コミチ 戦争のせいだって。こんな片田舎にも影響するんだね。遠い場所の話だと思ってたんだけどね。

ケイ へー、そうなんだ。

コミチ あんた、いたの？

ケイ いたのってまたまた。冷たいんだから。あ、ちよつと待ってよ。

舞台には黒薔薇と郵便屋。

黒薔薇 どうも、みなさん、おこんばんは。黒薔薇緑のお部屋。の時間でございます。今日はこの

片田舎で手紙を届ける愛くるしい郵便屋さんをゲストにお招きしてみました。郵便屋さん、お

こんばんは。

郵便屋 こんにちは。黒薔薇緑さん。郵便です。

黒薔薇 はい。どうも。何々。(と、手紙を読む。)黒薔薇緑さんの好きなものはなんですか？私の好きなものはあなたよ。はい、次。何々。黒薔薇緑さんは休みの日何をしていますか？それはね、祈ってるわ。あなたのために祈ってるわ。はい、次。何々。黒薔薇緑さんはどうしてそんなに下膨れなんですか？…企業秘密よ。さ、くだらない質問もそこそこに、早速ですが郵便屋さん。最近とつてもお悩みまくりコンボだとか。

郵便屋 実は戦争の影響で手紙が検閲されてるんです。だから私は封の開いた手紙を配達しなければいけないんです。

黒薔薇 なるほど。

郵便屋 封の開いた手紙なんて嫌ですよね？

黒薔薇 いい気はしないわねえ。

郵便屋 やっぱり…。

黒薔薇 でもそれじゃあ封をすればいいのよ。

郵便屋 え？

黒薔薇 もう一回郵便屋さん自身が封をするがよいでしょう。そうすれば問題なし。はい、解決です。

舞台には KITAMURA。

KITAMURA ダウト。

KITAMURA は一人でダウトをしている。
エザワ入ってくる。

エザワ 何してるの？

KITAMURA ダウトです。

エザワ 一人で？

KITAMURA イメージトレーニングです。

エザワ それって練習になるの？

KITAMURA なるわけないじゃないですか。一人でダウトですよ。

エザワ だよな。

スズキ入ってくる。

しかしスズキすぐに隠れる。

KITAMURA スズキさんもケイ先輩も駄目なんです。こんなんじゃ優勝なんてできるわけない。

僕は優勝しなきゃいけないんです。

エザワ べつして？

KITAMURA …。

エザワ 個人戦は？

KITAMURA 僕独りじゃ勝てないからこの村にきたんです。でもどっちにしろ駄目みたいですね。

スズキ …キタムー。

エザワ 1。

KITAMURA え？

エザワ 練習しようか？

KITAMURA エザワさんじゃ相手になりませんが。

エザワ 何を。

KITAMURA 贅沢はいえませんが。それダウトです。

エザワ 残念でした。

KITAMURA あ。

少女 ダウト。

少女入ってくる。

スズキ え？

少女 それダウトでしょ。

スズキ 随分強くなったね。

少女 でしょ。はい。約束。

スズキ わかった。ようこそ。我がチームへ。

少女 やったね。ねえ。

スズキ 何？

少女 スズキさんも優勝したら TOKYO シティに行くの？

スズキ まだ決めてない。優勝したら考えるよ。

少女 優勝したら？

スズキ だからそれから考えるよ。

スズキ、振り返る。

少女はいない。

スズキため息一つ。

KITAMURA おかえりなさい。

スズキ え？あ、ただいま。

エザワ スズキ君もやる？ダウト。

スズキ あ、うん。あ、いや。どうしようかな。

KITAMURA スズキさん。

スズキ はい。

KITAMURA 僕団体戦のエントリーを取り消します。

エザワ え？どうして？

KITAMURA その代わり個人戦にエントリーします。だからスズキさんも個人戦に出てください。そして決勝戦で勝負しましょう。

二人 え？

舞台には柚子子、コミチ、ケイ。

コミチ あんた、まだいたの？

ケイ まだいたの？って随分とよそよそしいんじゃないの。コミチちゃん。
コミチ キツ。

ケイ またまた、照れ屋さんなんだから。こないだだつて朝まで一緒に飲んだ仲じゃない。
柚子子 キヤ。柚子子ドキドキ。

コミチ はい、帰った帰った。お店は忙しいんだから。あんたの夏休みに付き合ってる暇はないの。

ケイ そんなつれないこといわないでさ、

コミチ しっし。ほら、しっし。

ケイ コミチ。

コミチ 何よ？

ケイ お前さ、なんでこの村に帰ってきたんだよ？

コミチ 理由なんて、ないわよ。

ケイ またまた。

コミチ 帰つて。

ケイ アハ。アハハハハ。柚子子ちゃん、またね。…**HOHH**。俺はさすがいのヒットマン。ヒットマンブルースブルース♪夜風が目にしみるぜ。シガレットケースにはしけもくの山。

ケイ、去る。

コミチ あー、すっきりし放題。

柚子子 コミチちゃん。

コミチ なあに？

柚子子 言い過ぎじゃない？

コミチ いいのいいの。あれくらいでへこたれるたまじやないから。

柚子子 へー。

コミチ なに？

柚子子 わかつてるって感じー。可愛い。

コミチ 何が？

柚子子 コミチちゃん、あの人のことが好きなんだね。

コミチ どこが？

柚子子 よいよい。恋じゃ鯉じゃ。その心はどちらもピッチピチ。

コミチ あ、柚子子、これ。

柚子子 ん？

舞台には黒薔薇とコミチ。

コミチ どう思います？

黒薔薇 なるほど。なるほど。なるほど。

コミチ こういうのって怪しかったですよね？

黒薔薇 何々。戦争反対運動。ふむふむ。同土募集。ほー。来たれ、何人も。はーん。老若男女問わず。それで。次の集いは。

コミチ 今日。
黒薔薇 なるほど。
コミチ やっぱり怪しいですよね。
黒薔薇 チャリーン。銭っこの匂いがする。
コミチ でも気になるんです。
黒薔薇 ヒラリヒラリ。お札の匂いがする。しかも新札。
コミチ だから私今日これからその集いに行ってみようと思っんです。
黒薔薇 行きなさい。それがあなたのためだと思っのなら。迷っ必要はありません。立ち止まって迷っくらいなら、行った先で迷えばいいのです。
コミチ はい。
黒薔薇 行きなさい。いいですね。

舞台にはスズキとエザワ。

エザワ 行っっちゃった。
スズキ 行っっちゃった。
エザワ ダウトでもする？
スズキ そうだね。
エザワ キタムラ。突然どうしたんだろうね？
スズキ うん。
エザワ そういえば、あれも変だと思っわない？
スズキ あ、それもダウト。
エザワ あ、はい。(と、場のカードを持っていく。)みんなに届いてるんだっつて。変じやない？
スズキ 例の手紙のこと？
エザワ そう。
スズキ 僕の手紙には飲み水の水で水水しさっつて書いてあっつた。
エザワ へー。取っ返せっつてことは何かを無くしたっつてことよね。
スズキ エザワさん。
エザワ 何？ダウト？
スズキ あ、じゃあダウト。
エザワ しまっつた。
スズキ そうかもしれなっい。取っ返せっつてことは何かを無くしたから。
エザワ え？もしかして私凄っい？凄っい？
スズキ ダウト。
エザワ あ、はい。

少女入っつてくる。

少女 瑞々しさを取っ返せ。
スズキ え？

少女 もしくは水水しさを取り返せ。
スズキ どういう意味？

少女 やった。スズキさんにもわからない事があった。

スズキ そんなもの一杯あるよ。

少女 そう思っていないけれど。

スズキ え？

スズキ 振り返る。

少女 はいない。

エザワ スズキ君。どうかした？

スズキ エザワさん。

エザワ はい。

スズキ …これうちの部屋のカギ。

エザワ あ、ありがとう。

スズキ カギは全部で3本。僕が1本。もう1本は家のポストの下。ケイとキタムー用ね。そして

これ。あ、でも無くさないでね。

エザワ うん。…え？

舞台には郵便屋と黒薔薇。

黒薔薇 これって結構地味な作業ですね。

郵便屋 そうです。毎日一杯届くんです。まだまだありますからよろしくお願いしますね。

黒薔薇 へー、何々。あなたのお悩み解決します。嫌だ。同業者じゃない。こういう胡散臭いもの

は捨てちゃいましょう。

郵便屋 駄目です。

黒薔薇 はいはい。あ。

郵便屋 だから駄目だって、あ、それ。

黒薔薇 これ？

郵便屋 届けたくないんです。

黒薔薇 またどうして？

郵便屋 これを届けてもその人は喜んでくれません。そんな手紙は誰にも届けたくないんです。

黒薔薇 では私が届けましょう。

郵便屋 え？

黒薔薇 私が届けたらいいのではないですか？てゆうか私も届けてみたい！

郵便屋 それも駄目です。

黒薔薇 届けなかったところで何も変わりませんよ。

郵便屋 …手紙返してください。

黒薔薇 それ。

郵便屋 違います。

黒薔薇 ですよ。はい。行きましようか。
郵便屋 はい。

舞台には柚子子とコミチ。

柚子子 あー、忙しい。

コミチ あー、忙しい。

二人 あー、大忙し。

柚子子 コネコネコネコネコの手も借りたい。

コミチ そうね、ケイの手でも借りたい。あー、忙しいったらありやしない。

柚子子 へー。やっぱし。

コミチ 何が？

柚子子 コミチちゃん、あの人のことが好きなんじゃん。

コミチ どうして？

柚子子 だって今ケイの手も借りたいって。グフフフフ。

コミチ ば、馬鹿なこと言わないでよ。別に私は、あいつでもいたほうがまたましになるかなと思

っただけで。だってほらあいつ一応人間だからさ、猫よりはきつと役に立つじゃない。それに、

どうせそろそろ勝手に来る頃だし。

柚子子 ふーん。恋が濃いのがう。

コミチ だから違うって。

ケイ たのもー。

コミチ ほら来た…。

柚子子 グフフフフ。

ケイ、入ってくる。

柚子子 いらっしやいませませ。

ケイ 今日こそは柚子。パンの命、このヒットマンの俺たちがいたたくせ、なんちって。

コミチ ちょっと邪魔。忙しいんだから勝手に入ってこないでよ。

ケイ おいおい、待てよ。俺たちはお客さんだよ。お客さんにそんな態度は駄目なんじゃないの、

ねえ、コミチちゃん。

コミチ 気安くちゃんづけでも呼ばないで。それに柚子。パンなら予約だけで完売。

ケイ 本当に？

柚子子 柚子がないの。シユン。

コミチ ねえ、柚子子。

柚子子 柚子？

コミチ 子。

柚子子 ミチ。

コミチ うん。

柚子子 やっぱりない。シユンシユン。

コミチ 柚子子。私、やっぱり戦争は反対。
柚子子 そうだね。

コミチ だからちよつと出かけてくるね。ごめんね。忙しいのに。ごめんね、居候まではじめちゃったのに。ごめんね、いろいろ。でもね、居候まで始めちゃったから、これ以上迷惑かけられないから。だから出かけてくるね。今日はちゃんと手伝えなくてごめんね。

柚子子 ううん。全然大丈夫。

コミチ ごめんね。ありがとう。じゃあちよつと行ってくる。

柚子子 行ってらっしゃいしやい。

コミチ去る。

ケイ コミチの奴、どこに行くって？

柚子子 さあ。

ケイ ふーん。

柚子子 さあ、ケイさん。お店のシャッター開けてきてくださいいね。

ケイ 俺っちが？

柚子子 そろ。お願いね。

ケイ 俺っちは雇われのヒットマン。流れがなくても流される。

舞台には KITAMURA とエザワ。

KITAMURA 決別です。

エザワ エへへへ。

KITAMURA 気持ちが悪いです。

エザワ エへへへ。いいもん。気持ち悪くたって良かったって。いいんだもーん。

KITAMURA こういう時××が出るかと思っただけ。××でませんでした。あれ？××ってなん
なしたのけ？

エザワ エへへへ。聞いて。ねえ、聞いて。エへへへへ。もらっちゃった。

KITAMURA だもでないほうが楽ですね。何も思わなくていい。

エザワ エへへへ。カギ。キラリ。

KITAMURA え？

エザワ 追ってみるもんね。追いつづけるものは救われる。エへへへへ。

KITAMURA 良かったですね。エザワさん、僕の故郷は柚子街なんです。

エザワ え？もう一回。

KITAMURA だから僕の故郷は白黒街の隣街の隣街、柚子街なんです。

エザワ へー、初めて聞いた。

KITAMURA 初めて話しました。

エザワ そっか。

KITAMURA 信じてました？

エザワ 嘘なの？

KITAMURA 嘘だといいですね。

エザワ 本当なんだ。

KITAMURA 僕の故郷の名産は柚子。それしかありません。他には何も。縮尺を十万分の一ぐらいにするとうちょうどここからここぐらい。なんだか近く感じますね。でも電車で帰ろうとしたら3日以上費やしてやっと僕の故郷に帰ることができません。

エザワ そっか。

KITAMURA そんな所と戦争をして一体何が欲しいんでしょうね。だって柚子しかないんですよ。

エザワ 柚子が欲しい人もいる。

KITAMURA エザワさん。

エザワ 何？

KITAMURA 冴えますよね。エザワさんは本当は凄い人かもしれませんね。

エザワ お褒めに預かり、ありがと。

KITAMURA 本当に、本当に憧れていたんですけどね。ダウトです。それ。(と、カギを指す)

エザワ え？

舞台には黒薔薇とコミチ。それぞれ布教活動と反戦運動。

さらには柚子子とケイ。二人はパン屋の接客。

ケイの視線はコミチへ向かう。

走り回る郵便屋。

黙々と一人ダウトに励むKITAMURA。

スズキ、その風景を見ている。

そしてそのスズキを見ているエザワ。

黒薔薇 皆様ご無沙汰いたしました。モケーレムベンベ教、教祖の黒薔薇緑でございます。

コミチ 署名運動にご協力お願いいたします。お願いします。

柚子子 あー、忙しい忙しい。

ケイ ヒットマンも走る走る。

郵便屋 チリンチリン。郵便です。郵便屋がとおります。

コミチ ちよっと。

黒薔薇 なんぞございましょうか？

コミチ ここは私達のテリトリー。入ってこないで下さい。

黒薔薇 あら、御免あそばせ。

KITAMURA ダウト。

柚子子 柚子の代わりは何がいいかな？

ケイ 代わり？

柚子子 だって柚子が買えなくなったら代わりを探さなきゃでしょ。

ケイ じゃあ葡萄とか。

柚子子 葡萄パンか。

ケイ 柚子っ子ちゃん、葡萄っ子だね。

柚子子 チッチッチ。柚子子は玉葱の頃から柚子子なのじゃ。

郵便屋 皆さん、ダウト大会へのエントリーはお早めに。

黒薔薇 皆様、黒薔薇緑でございます。

コミチ 署名運動にご協力お願いいたします。

黒薔薇 キー。

コミチ キー。

KITAMURA ダウト。

柚子子 コミチちゃん大丈夫かな？

ケイ 大丈夫だよ。あいつは。

柚子子 そうかな。

ケイ なんかつたらヒットマンの俺っちが、バキューンだ。

柚子子 グフフフ。ドーン。

ケイ ん？

柚子子 故意です。

KITAMURA ダウト。

コミチ あら、インチキ宗教家さん。まだいたの？

黒薔薇 キー。何よ？

コミチ なんなのよ？

郵便屋 郵便です。そして明日はダウト大会です。

KITAMURA よし。

エザワ ねえ、キタムラ。

KITAMURA 何ですか？

エザワ ううん、なんでもないや。

全員 ダウト。

スズキ 瑞々しさを取り返せ。そんな言葉を、そんな手紙を忘れるほど日々は慌しかった。そしてダウト大会当日になった。

一機の飛行機が飛び立つ音。

上空を見上げるそれぞれ。

スズキ あ、飛行機雲だ。

4

エザワ 開会式のイベントだって。

スズキ 何の？

エザワ ダウト大会。

スズキ そっか。

KITAMURA 僕は負けない。勝つんだ。

エザワ ねえ、スズキ君。

スズキ 何？

エザワ 本当に出ないの？

スズキ …うん。

KITAMURA よし。行くう。

郵便屋 おはようございます。郵便です。

KITAMURA おはようございます。今日もいっしょにいきます。

郵便屋 おめでどうございます。

KITAMURA ありがとうございます。

郵便屋 中身見てしまいました。

KITAMURA こんなものまで検閲するんですね。

郵便屋 ごめんなさい。

柚子子 コシチちゃん。どこ行くの？

コシチ ちよつとね。

柚子子 コシチちゃん。

コシチ 何？

柚子子 柚子子は柚子子。コシチちゃんは。

コシチ コシチ。

柚子子 うん。

KITAMURA 郵便屋さん。

郵便屋 はい。

KITAMURA なにおおめでたいんですかね？

郵便屋 そう言うしかないんです。本当にごめんなさい。

KITAMURA 僕の方こそ、ごめんなさい。

郵便屋去る。

全員（スズキ、KITAMURA 以外） 只今より1回戦を開始します。

KITAMURA 結局エントリーしなかったんですね。

スズキ だから個人戦は出ないって。

KITAMURA そめて僕の試合ぐらいは見てくださいね。スズキさんが出ても出なくても優勝は僕ですから。

スズキ わかったよ。

エザワ 勝者キタムラ。

KITAMURA どうですか？ねえ、スズキさん。僕にはわかりませんよ。三十になる恐怖なんて。

もしそこに恐怖があるとすれば、それが何かわからない恐怖ぐらいなんです。

柚子子 今日は一杯パンを売りますからね。一杯売って一杯の人に食べてもらうのです。

ケイ ごめん。俺も出場するんだ。

柚子子 そうなんですか？

ケイ 一応去年のベスト8だからさ。ごめんね、柚子っ子ちゃん。

柚子子 大丈夫。頑張ってくださいね。

ケイ おうよ。

コミチ 勝者ケイ。

ケイ アイムヒットマン。

黒薔薇 ダウト。

柚子子 勝者黒薔薇緑。

黒薔薇 勝っちゃいました。幸先よしでございます。

コミチ そう、他に方法は無いんだから。

KITAMURA それでもね、正直ね、僕は、二十歳になったら死んでもいいと思ってました。それ以上は戯れ事。蛇足なんです。蛇足。ね。若いって怖いんですよ。

エザワ あのね、別にね、たいしたことじゃないんだけどね、親からね、手紙が届いたんだ。それでね、お父さんがね、

スズキ そう。よかったね。

エザワ お父さんがね。

黒薔薇 村の人を知るためには村の人が好きなものを知る。これも布教の第一歩です。あ、それもダウト。

ケイ 勝者黒薔薇緑。

黒薔薇 また勝ってしまいました。

KITAMURA でも今は自分を冷静に怖いと思えるし、近くて遠い三十歳という数字も怖いんです。僕の方がよっぽど、スズキさんより残酷な立場にいるんじゃないですかね。…ねえ、スズキさん、聞いていますか？

ケイ えーっとこれがこうなって、そうするとあれがこうなるから。

KITAMURA ケイ先輩。

ケイ ん？

KITAMURA ダウトです。カードもケイ先輩も。

ケイ またまた。俺たちは殺し屋だよ。

KITAMURA そしてあがりです。ケイ先輩はヒットマンじゃありません

ケイ だから。

KITAMURA 違いますよ。

コミチ 人が集まる場所。それは今日。

黒薔薇 勝者キタムラ。

KITAMURA 当然です。違いますか？もう僕には僕らしいものなんてどこにも残ってない気がするんです。冷静な僕が僕らしいって誰が決めたんですか？

エザワ 何見てるの？

スズキ 何も。

エザワ ダウトでしょ。

スズキ どうして？

エザワ ダウト。

黒薔薇 あ、またまた勝ってしまいました。

KITAMURA 勝者 黒薔薇緑。

ケイ 俺たち初めて手加減しなかったぜ。

スズキ 知ってる。

ケイ キタムラの奴、強くなったよ。

スズキ それも知ってる。

エザワ 帰って来いって。

ケイ トボトボトボトボ。

コミチ 注目が集まる場所で注目が集まることをする。

ケイ コミチ？

柚子子 勝者キタムラ。

KITAMURA よし。

ケイ 柚子子ちゃん、コミチのやつ、

柚子子 パンを作るの。パンを食べればみんな幸せになるの。そうでしょう？

ケイ 殺し屋もたまには仕事しなきゃな。

柚子子 こねこねこねこね。

ケイ 柚子子ちゃん。俺っちのいなくなった村を頼むね。

柚子子 任された。

ケイ 大げさだな。俺っちだよ。

柚子子 そんなことないよ。

コミチ 決勝戦がその時。

エザワ 決勝進出者は黒薔薇緑とキタムラ。

スズキ 決勝戦だね。

KITAMURA 怖い。怖いよ。ねえ、スズキさん、僕は本当は恐くて恐くてしかたないんです。

スズキ 決勝戦はどうするの？

KITAMURA 決勝戦でスズキさんをぶっ倒して優勝。そしてシティへ行く。そうすればこれも免

除されるはずだったんです。でももう遅い。

スズキ 遅い？

KITAMURA これです。(と、赤紙) 僕が送られる場所は最前線だそうです。でも僕は帰ってきます

すよ。だから待ってるって言うて下さい。そうすれば

スズキ ごめん、悪いけど言えない。言えないよ。

KITAMURA そうですよ。これがきつと若いっていうことなんです。甘えなんですよね。若い

っという。それじゃあ行ってきます。

スズキ …。

KITAMURA …それじゃあ行って来ます。

エザワ スズキ君。私も帰るね。帰って来いって。(と、手紙を見せる)

スズキ そう。

エザワ そしてバイバイするね。

スズキ バイバイ？

エザワ だっておかしいでしょ。これ。

黒薔薇 エザワさん。

エザワ もしかして今の聞いてた？

黒薔薇 がっぼし。

エザワ こんなもんよね。

黒薔薇 真実の一つではありません。そしてそれも真実の一片なのです。

エザワ 黒薔薇緑さん。

黒薔薇 なんですか？エザワさん。

エザワ もっともらしい事言わないで下さい。もういう時、××がでるはずなのに。××です。

××。××？おかしいな。なんとも思いません。私なんとも思わないです。

黒薔薇 その人のためだなんてまやかしのよ。私はね、自分が嫌われたくないだけなのよ。転校

生が新しい場所で上手くやるにはね、嫌われないようにするしかないのよ。

エザワ 誰に言ってるの？

黒薔薇 独り言よ、独り言。独白。毒吐く。

エザワ ダウト。

全員（スズキ以外） 只今より決勝戦を開始いたします。

黒薔薇 皆様おこんばんは。黒薔薇緑でございます。

KITAMURA …。

歓声。

黒薔薇 見てしまいました。あなたの手紙。

KITAMURA …。

黒薔薇 私は見なかったことにしますよ。見なかったことにしてダウトを始めます。なので見なかったことにして下さい。決着がついてからまた、考えましょう。

KITAMURA 終わるまでは目をつぶる。つまり逃げる。

黒薔薇 とりあえずです。逃げなくても良いですけど何もミスをしないのであれば、私は自信がないのであーだこーだは放置します。どろどろの気分も面白いですけどね。

KITAMURA 黒薔薇緑さん。

黒薔薇 はい。

KITAMURA 僕はあなたのことが好きになりました。恋ってこういうものなのですか。横着で明確なものですかね。そうですね。きっとそうなんですネ。

黒薔薇 さ、ダウトでもしましょうか？

KITAMURA そうですね。

コシチ 待った。私は戦争に反対します。戦争反対。

銃を構える音。

それにあわせてケイは形の無い銃を構える。

コシチ 戦争反対。戦争…ねえ、スズキ君。あの時どうしてここにこなかったの？あなたがここに来ていたら私がシテイで失敗することなんて無かったのに。××なんて流さないで済んだのに…××？××って。

ケイ 俺は殺し屋。そう。H.I.T.M.A.N。アイムヒットマン。だから俺はこんなやり方しかわからないんだ。

一発の銃声。
倒れるコミチ。

黒薔薇 え？

柚子子 コミチちゃん！

ケイ 俺は殺し屋。そう。H.I.T.M.A.N。アイムヒットマン。だからコミチ。俺はこんなやり方しかお前を止める方法がわからなかったよ。

KITAMURA 行ってきます。

エザワ バイバイ。

スズキ だからね、僕はもうダウトは辞めたんだ。

一機の飛行機が飛び立つ音。
上空を見上げるそれぞれ。

スズキ あ、飛行機雲だ。

舞台にはスズキ、ケイ、コミチ。

コミチ ねえ、スズキ君。…が、…が。(と、うづくまる。)

スズキ え？何？わからないよ。コミチちゃん。どうしたの？

ケイ スズキ。落ち着いて聞けよ。

スズキ なんだよ？ケイまでそんな顔して。

ケイ …が。

スズキ え？

音楽。

少女入ってくる。

少女の手には睡眠薬の入った瓶。

少女は睡眠薬を飲みながら舞台中央の椅子に座る。

椅子の前にあるテーブルの上にはラジオ。

つまりそれはオープニングの少女のシーン。

ラジオ (英語で) 臨時ニュースをお伝えします。本日午前未明、白黒街が玉葱街に侵攻を開始しました。繰り返しお伝えします。白黒街と玉葱街の間で戦争が起きました。この戦争は…。

睡眠薬の瓶を倒す少女。

蓋が開いていて散らばる錠剤。

少女は睡眠薬を飲み続ける。

そして少女は眠るようにその首を落とす。

スズキ　：ラベンダーの香りがする手紙にはこう書かれていた。そう。彼女から届いた最初で最後の手紙にはこう書かれていた。瑞々しさを取り返せ。もしくは水水しさを取り返せ。

全員　只今より決勝戦を開始いたします。

ケイ　スズキは？

コミチ　いない。どこにも。

ケイ　どこいったんだよ。あいつ。決勝戦がもうはじまるって時に。

コミチ　スズキ君、このままこないつもりかな？

ケイ　どうして？

コミチ　だってたった今のことなんだよ。私まだバクバクしてる。

ケイ　俺もだよ。

コミチ　ケイ。

ケイ　なんだよ？

コミチ　私はシテイに行きたい。

ケイ　わかってる。

コミチ　今もそれが一番大事。私おかしいかな？

ケイ　とにかく俺はスズキを捜してくる。

コミチ　うん。

全員　彼が彼女の事を聞いたのは決勝戦の直前だった。

ケイ　スズキ！

全員　そして彼は決勝戦をサボった。

ケイ　スズキ。

スズキ　何？

全員　スズキ選手の試合放棄と見なし優勝はコミチ選手。

エザワ　え？スズキ君どうしたの？

全員　そして彼はダウトを辞めた。

コミチ　私行くね。シテイに行つてこの村のことなんて忘れちゃうね。

ケイ　ああ、じゃあ行けばいい。

コミチ　しょうがないじゃない。もういないんだよ。いないものはあつたかかないんだから。だから

　　らしやうがないのよ。

ケイ　行けよ。

コミチ　ええ、行くわよ。女はね、強いんだから。

ケイ　さよならだ。

コミチ　さよなら。

KITAMURA　あのダウトのスズキさんの家はどちらでしょう？

黒薔薇　風の吹くままありのまま私はどこへ向かいますしょう？

柚子子　グフフフフ。パン屋が出来たのじゃ。

全員　瑞々しさを取り返せ。

　　リピートされるスズキ以外の声。

それは一つのピークを向かえ不意にとまる。

スズキ 瑞々しさを取り返せ。もしくは水水しさを取り返せ。

少女 それってどういう意味？

スズキ どういう意味だと思っ？

少女 うーん。

スズキ 意味はない。でも気持ちはある。そういう言葉だよ、それって。僕にだってそれぐらいの権利はある。はず。

少女 そう。そういうこと。

スズキ え？

少女 それはあなたが私に言った言葉。思い出して。そして、ねえ、行かないで。

スズキと少女以外の全員はその場に倒れる。

スズキ そっか。君を殺したのは僕だったんだね。

少女倒れる。

エピローグ

スズキ こうして僕は一人になった。一人になったら不意に何かが入み上げてきた。：涙だった。失

われたはずの涙が今更返ってきたよ。

柚子子 柚子がなくても柚子子は柚子子。柚子がなくてもパンはできる。はい。焼きたての名もな
いパン。

スズキ そうだね。

柚子子 始まるね。

スズキ 始まるのか。

柚子子 そうだね。

スズキ そうだね。

柚子子 そうだね。

スズキ ああ、

柚子子 そう？

スズキ いやいやいや。

柚子子 そうだね。

スズキ いやいやいや。

柚子子 そうだね。

スズキ もういいよ。

柚子子 何が？

スズキ だからもういいよ。

柚子子 始まる？
スズキ ああ。
柚子子 何が？
スズキ 戦争。
柚子子 ふーん。
スズキ ふーんって。
柚子子 だってもう始まってるとじゃない。
スズキ あ、本当だ。
柚子子 でしょ。ねえ、パンは好き？
スズキ え？
柚子子 パン。好き？
スズキ …大好き。
柚子子 (笑って) パンで世界を丸くするのはや。
スズキ ありがとう。代わりに。はい。ラジオ。
柚子子 ダウト。
スズキ あ、これ葡萄が入ってる。

終

※作品の著作権は作者ならびにノアノオモチヤバコに帰属します。無断での上演・掲載・配布は固くお断り申し上げます。上演・掲載・配布等を希望の場合は info@noa-toybox.com まで
「一報いただけますようお願いいたします。」